平成２９年度　第３回　池田市総合教育会議　　議事録

日　時：平成２９年１２月１８日（月）午後３時１５分～午後４時５０分
会　場：池田市役所　３階　議会会議室
出席者：倉田市長、田渕教育長、山岸委員、河野委員、小林委員、木村委員
＜事務局＞
１６人
傍聴者：０人

１．開会の挨拶

＜市　長＞

・今年最後の総合教育会議にご出席いただき感謝申し上げる。
・１２月定例議会の最中だが、一般質問を残すのみとなった。おかげさまで、給食センターの用地購入に係る予算も委員会では可決承認されたのでスムーズに進行するものと思っている。義務教育学校の設置についても賛成多数でご承認いただいており、「教育日本一」に向けて一歩前進したかと思う。
・市役所駐車場に非常用発電機ができ、せっかくなので池田市を標榜するものを掲げてはどうかと議員提案があり、南側の壁に、ふくまるくんを中心に「教育日本一」と書いたところ、どこが日本一かといったクレームがあった。あくまで、日本一をめざす姿勢を示しているものであり、今回の教育日本一予算もそのために支出するものと考えている。
・明日は滋賀県の甲賀市長が本市へ来てくださることになっている。城跡公園に忍者を出没させようと計画しており、忍者が出るなら、伊賀衆か甲賀衆のどちらかが良いと考えている。昔、池田の城山町のあたりには、甲ヶ谷（こかたに、甲賀谷）という実際に甲賀という名称を付けた地名があり、池田の郷土史会によると、甲賀衆とのつながりがあったことが残されていることから、ご縁で甲賀市長にお話をしたところ、今回の訪問へとつながった。いろいろな意味で仕掛けを行い、まちの活性化を考えているところである。
・しかし、単に仕掛けだけではだめなのが教育であり、仕掛ける以上は、ガソリンがいるのが市長特命予算である。そこで今回、教育委員会事務局案に加えて、教育委員の先生方のご提案を伺い、来年度の予算編成についてご相談させていただきたい。

２．議事

・教育日本一予算について

〇事務局より説明。
・資料「教育日本一に向けた市長特命予算事業（平成２８～３０年度）」は、当初５０，０００千円からスタートし、平成２９年度で５０，０００千円、さらに平成３０年度予定で６０，０００千円と、平成２７年度予算に比べ１６０，０００千円上積みいただいた予算事業の一覧であり、①英語教育推進事業、②特色づくり推進事業、③教育環境整備事業、④幼児教育サポート事業、⑤いきいき学園サポート事業、⑥児童生徒支援事業の大きく６つに整理している。
・平成２８年度当初は「特色づくり推進事業」の小・中学校指導者派遣事業と地域学習教室事業、「幼児教育サポート事業」の通級教室開設の３つの事業でスタートを切った。

・今年度は、「英語教育推進事業」では、英語学力向上推進事業 GTEC と OST（オンライン英語トレーニング）の実施、「特色づくり推進事業」では、指導者派遣事業やふくまるはばたき塾の拡充に加え、ほそごう学園の学校運営協議会やスマートコーチ事業、小学校低学年サポートや４年生の３５人学級編成の実施、「幼児教育サポート事業」では、通級教室の拡充などの人的支援に取り組んでいるところ。
・今年度の新たな取り組みとして、「教育環境整備事業」では、電子黒板や学園公用車の配置、「児童生徒支援事業」では、スクールアシストメイトの配置や子どもみんなプロジェクトへの参画を行っているところ。
・平成３０年度の事業提案については、拡充・新規合わせて、増額分合計額は５９，９８３千円となっている。今回は、事務局提案事業の枠として４０，０００千円、教育委員提案事業の枠として２０，０００千円となっているのに対し、事務局提案の総額は４０，０８４千円、教育委員提案総額は１９，８９９千円となっているところ。次に、増額分の事業内容案を説明する。
・「英語教育推進事業」の１項目目、「英語専科教員配置」は小学校英語の教科化に向けて音楽のように教科担任制を導入するものである。これまで学級担任が ALT と共に授業を行ってきたが、今後は、専科の先生に授業を任せ、責任を持って英語教育を担ってもらうため、来年度は３校をパイロット校に指定し、実施していく予定。２・３項目目、「OST（オンライン英会話トレーニング）」と「はばたきイングリッシュ」は今年度の事業を拡充して予算計上している。
・「特色づくり推進事業」は、新規事業を４項目上げている。１項目目、教育委員提案「市民スポーツ振興事業」は、元阪神タイガースの八木選手に池田市のスポーツ顧問に就任いただき、学校のクラブ活動だけではなく、広く市民スポーツの推進に寄与いただくことを考えている。２項目目、「教育日本一広報事業」は、前回の会議でお示ししたパンフレットを専門家にブラッシュアップしてもらい、広く市民に配布していくための予算である。３項目目「ほそごう学園広報事業」は、ほそごう学園の魅力や特色を広く周知するためのチラシの作成予算である。４項目目、「教育日本一検証会議開催事業」は、この２年間、来年度を合わせて３年間の事業の効果検証を行い、継続事業や方向転換が必要な事業、見直す事業などについて検討していくための事業である。
・「教育環境整備事業」について、１項目目、教育委員提案「教職員の働き方マネジメント事業」は、学校への教職員の出退勤管理システムの導入に係るものである。近年、働き方改革が社会課題となり、教員について国から緊急提案が出されるなど喫緊の問題となっている中で、本市の先生方の労働安全衛生管理のためのご提案である。２項目目「幼稚園 ICT 整備事業」は、これまで小・中学校の先生方にのみ貸与され、幼稚園の先生方には貸与されていなかったパソコンを幼稚園にも配備するもの。上記の出退勤システムとも連動のため教育環境整備事業に記載しているが、内容的には幼児教育サポート事業とも位置づけることができる事業である。３項目目、「ICT 教育支援員配置事業」と「小学生プログラミング教育委託事業」は、ソフトバンクによる Pepper 社会貢献プログラム「スクールチャレンジ」の採択を受けて取り組んでいる小・中学校のプログラミング教育を支援するための事業予算である。４・５項目目の「図書館システム更新事業」や「義務教育学校システム更新事業」は、それぞれの環境に合わせたシステム更新のための予算計上である。６項目目、「電子黒板拡充設置事業」は、今年度新規に配置した６５型電子黒板を今年度以前に旧型が配置されていた石橋小学校や細

郷小学校にも配置するものである。

・「幼児教育サポート事業」について、１項目目、教育委員提案「幼児教育サポートチーム設置事業」は、教育委員会事務局内に、幼児教育アドバイザー等専門家で構成する「幼児教育サポートチーム」を設置し、保育士や教員、保護者を対象とした研修会の企画、実施を含め、市内の公私立幼稚園、保育所、家庭、関係機関と連携し、幼児教育の支援体制を整備するものである。２項目目「幼児の知力・体力向上事業」については、前回会議で就学前の３歳児から５歳児を対象とした体操やリトミックなどの公設民営教室についてご提案したところ、教育委員さんから、加えて知的な体験や学習を取り入れてはどうかとご提案があった。小学校入学時における、ひらがなが読める子、読めない子、数を数えることができる子、できない子というスタートの差が学習意欲に影響するのではないかというご指摘を反映させていただいている。

・「いきいき学園サポート事業」は、教育委員提案の新規事業である。１項目目「教育日本一特色ある小中一貫教育推進事業」は、特色ある教育の取り組みを小・中一貫で進めていくため、各学園から事業提案を受け、執行していく予算として計上しているところ。２項目目、「就学支援事業」は、現在の高校生・大学生に対する奨学金の制度変更に伴い、変更後も財源を維持していくための予算計上である。３項目目「ほそごう学園特認校制度補助制度事業」は、ほそごう区域外から特認校制度を活用して通っている児童・生徒の通学費、具体的には阪急バスの通学定期代の半額を補助するものである。

＜市　長＞

・平成３０年度の予算事業については、新たな取り組みとして、教育委員の先生方に２０，０００千円の予算枠についてご意見を頂戴したいと申し上げていたところであり、改めてご意見をお伺いしたい。

＜委　員＞

・小・中一貫教育を推し進めるためにある程度予算を積んだ方が良いのではないかという思いで、「ほそごう学園特認校制度補助事業」を提案させていただいた。ほかにも、小・中一貫教育をサポートするため、各学園から「特色ある教育活動計画」を募集し、助成金を交付する「教育日本一特色ある小中一貫教育推進事業」を提案させていただいた。

・小学校入学時の学力が大事だと考えている。学力全体の底上げを図るためには幼児教育をサポートすることが重要であり、公立・私立等含めてレベルアップを図るために「幼児教育サポートチーム設置事業」を提案したところ。また、就学前の児童を対象としてさまざまな取り組みを行っていただきたいと思い、「幼児の知力・体力向上事業」を上げている。

・OST（オンライン英会話トレーニング）については、事務局提案で、ほそごう学園以外の４中学校で実施するとあるが、ほそごう学園で実施したところ非常に効果があったと聞き及んでいるので、ぜひほかにも拡充していただきたい。

・事務局提案で「教育日本一検証会議」があるが、教育は長い目で見るべき面や数字では表せないところもあるので、ご理解の上評価いただける委員構成にしていただきたい。

＜委　員＞
・小・中一貫教育は本市の重要な教育施策の一つと認識しているところ。
・ほそごう学園については、通学援助を行うことで、より多くの子が来られるようにしていただきたい。
・「就学支援事業」について、家庭の事情で高等教育が受けられない子どももいるが、少なくとも現状より低くならないようにしていただきたい。
・幼児教育については、小学校入学時の差が学習意欲に関わるのは残念なので、支援体制を整備していただきたい。
・「教職員の働き方マネジメント事業」の出退勤システムの導入について、職員のメンタル面・勤務時間の管理を行い、健康を守っていくことが重要と考える。

＜委　員＞
・「市民スポーツ振興事業」について、スポーツに対する関心を持ってもらうためにも、野球に限らず、ゴルフやサッカーなど他のスポーツへ広げていただきたい。
・「教職員の働き方マネジメント事業」については、出退勤システムを導入し、先生方の働き方の把握に役立てていただきたい。
・「電子黒板拡充設置事業」について、電子黒板や書画カメラなどの活用は先生方の授業の手助けにもなり、効果的であると考える。
・「幼児教育サポートチーム設置事業」に力を入れていただきたい。これまで子育ては家庭の責任だったが、今後はより行政が手助けをしていかなければならないと考えている。
・「幼児の知力・体力向上事業」の読み書き教室については、子ども全体の学力の底上げのために必要と考え、提案させていただいた。
・「就学支援事業」については、貧困といった社会環境が子どもの未来を左右しないような教育体制にしていただきたい。

＜委　員＞
・小・中一貫予算について、新規事業のスタートを切っていただいてご検証いただきたい。
・「教職員の働き方マネジメント事業」については、システムを導入したから早く帰りましょうとはならないと思うが、第一歩として形が見え、意識改革につながるのではと期待している。
・「幼児教育サポートチーム設置事業」について、幼保合同で研修会等していただくと良くなるのではないか。また、私立も一緒に考えていくとさらに良くなるのではないかと思う。
・「幼児の知力・体力向上事業」について、小学校入学時に意欲をなくさないことが目的であり、なにかができるようになって小学校に上がることが目的ではないので、十分に検討していただきたい。
・「いきいき学園サポート事業」の内の「就学支援事業」の対象者について、これまでの市内に通う子に更に市外に通う子も加えていただけることを嬉しく思う。
・ほそごう学園がすばらしい形であるので、ほそごう学園で実績を積み、外へ広げていただきたい。

＜教育長＞

・平成２８年度は３つの事業をスタートし、平成２９年度は英語教育、教育環境、児童生徒支援事業と増え、平成３０年度は更なる事業の拡充、あるいは新規事業を提案させていただいたところ。

・英語教育に関しては、OST（オンライン英会話トレーニング）を他の中学校へ広げていく。

・はばたきイングリッシュは、今年度１００人以上の小学生に希望いただいており、更に拡充し、子どもたちの英語への興味・関心を高めてまいりたい。

・「特色づくり推進事業」は、３年間取り組んできた事業内容について検証を行い、今後の方向づけができたらと考えている。

・「教育環境整備事業」については、今年度導入した電子黒板やデジタル教科書が現場で役立っていると報告をいただいている。また、今年度以前に旧型が配置されていた石橋小学校や細郷小学校の電子黒板については、６５型電子黒板に更新するとともに、各校の支援学級あるいは特別教室で旧型を活用していく。

・「幼児教育サポートチーム設置事業」は、幼児教育サポートチームが、地域の関係機関と連携を図り、こども園、公私立幼稚園、保育所など市内の幼児教育施設や家庭を支援する体制整備をめざすもの。

・「いきいき学園サポート事業」は、小・中一貫教育に係る特色ある取り組みに対する支援である。それぞれの学園で現在取り組んでいる活動として、いしばし学園では、小・中学校間交流として車椅子バスケットボールや人権講和の実施、しぶたに学園では、各学年の交流事業を実施したほか､各学園で小学校４年生が集まってハッピーテンを行っているところであり、今後本事業を拡充するために、ある程度予算の裏づけ、支援が必要と考えている。

・「児童生徒支援事業」のスクールアシストメイトの配置、こどもみんなプロジェクトについては、大阪大学を中心とした特別支援のプロジェクトであり、参画し成果をあげていきたいと考えている。

＜副市長＞

・教育委員のみなさまには、２０，０００千円の新たなご提案にお礼申し上げる。

・拡充施策に加えて新規事業についても、教育委員の新たな着眼点でご提案いただいているところ。

・特に、ほそごう学園や就学前教育への取り組みに力を入れていただいている。今後本格的な予算査定に入るので、配慮しながら取り組んでまいりたい。

＜市　長＞

・教育日本一に向けた市長特命予算事業について、２か年が終了する。見えてくる成果として、ふくまるはばたき塾では過去問を中心に進学指導を行っているところだが、来年入試あたりから成果が出そうか。

＜学校教育推進課長＞

・今年度３回学力テスト（業者テスト）を行っている。学校で結果がでないところもあるが、偏差値が上がった生徒が複数いるような学校、学年もある。

・生徒の参加率は昨年度に比べ１５％以上上昇し、９０％以上の定着率なので、これは着実に効果が出るものと期待している。

＜市　長＞
・ふくまるはばたき塾は全中学生の１１％が受講しており、うち９０％の子どもたちが出席しているところ。
・市民から見ると、学力テストの結果にどのように表れているか、あるいは公募進学の結果にどのように表われているか、子どもたちの落ち着きの中に成果が見られるかなど、いろいろな成果の検証の仕方が考えられる。
・教育委員会としては、３年目に約２５０千円の予算で検証会議を開催する予定ということだが、はやすぎないかどうか。例えば、地域分権は制度発足１０年目で検証を行ったが、なぜこのタイミングなのか。

＜委　員＞
・教育は長い目で見ないといけない部分があると考えており、２年でどこまで検証できるかどうか疑問が残るところ。また、検証を行ってしまうと報告義務が出てくる。どのような方に委員になってもらうか、どのような観点から検証していくかといった課題もある。したがって、検証会議開催に向けての協議あるいは検証会議開催のための取り組みといった形にし、どのような形での検証が良いかこの１年間考えるような前段階を持ち、その次の年に正式な検証会議を行う方が良いのではないか。

＜教育部長＞
・多くの予算を投入しているので、今後の方向性として、どのような方向で事業を進めていくか見直しをかけたいという思いがある。

＜委　員＞
・検証については、異なる観点から意見を聞くことができ、今後につながるので無駄ではないと思うが、はやすぎるのではないか。

＜市　長＞
・スケジュールとしては、５０，０００千円ずつ４年かけるつもりでいる。したがって、平成２７年度に比べて更に２億円投入することになる。このあたりから検証が必要になってくるのではないかと思うので、検証を行い、２億円という枠の中で組み替えを行っていく。４年経って検証する、あるいは４年目に検証しても良いと思うので、検証会議に係る予算は省き、他の事業を厚くする方向で検討していただきたい。
・少人数学級編成はどうなるのか。

＜教育部長＞
・４年生までの少人数学級編成の予算措置は行っているところ。
・学級編成については、市町村で弾力的運用ができるので、市費の講師を派遣することによっ

て、単学級を複数学級にすることは可能なので、人的措置で対応していくことを考えている。

＜教育長＞

・３５人の学級編成については、今年度４年生まで上げていっているところ。池田市では、小学校１年生から４年生までは、３５人学級編成を行っている。５年生から中学生をどうするかについては、単学級が生じる場合は単学級を回避し、２学級編成を行う。その場合に、学校の裁量、弾力的な運用の中で行うのかどうか。弾力的運用は教員の定数の中で行うので、それぞれの教員の負担が増える。各学校の裁量、弾力的運用を行うのか、それとも市教育委員会が教員を充てて少人数学級を実現するのか。その学校やその子どもたちの実態に鑑みて行うべきという考え方に立っているところ。

＜市　長＞

・池田市の教育行政の基本的な考え方として、学年で単学級はつくらない。極端に言えば、学年で３０人の場合、１５人、１５人といったような、クラス替えができる体制にしている。
・限られた予算の中で、英語教育に重点を置くのか、少人数学級編成に重点を置くのかといったような質問にはどのように答えるのか。

＜教育長＞

・小学校５年生以上で少人数学級編成の必要性が生じた場合は事務局として人を配置する。その場合は当然、人件費が発生する。しかし、学校の裁量、弾力的運用の範囲の中で複数学級が実現できるようであれば、それで対応が可能となる。少人数学級編成、複数学級編成については、このような方針で取り組んでまいりたい。
・また、英語の専科や分割指導、習熟度別の指導に府からの加配もあったので、今後そのような加配も活用してまいりたい。

＜市　長＞

・少人数学級については、学年単学級は認めないという方針であり、今後も柔軟に対応していく。
・５年生も３５人学級、あるいは中１ギャップをなくすために中学１年生は３５人学級にするべきではないかという考え方もあるが、そうではなく、英語の専科の先生を配置しようというのが、今の教育日本一予算の考え方である。
・英語専科教員の配置について、１０校あるのに３校だけといったような一部に配置するという点が気になる。
・少人数学級編成に対する考え方と英語専科教員の配置、一部の学校だけというようなモデル校をつくることに対する考えはどうか。
・教育日本一に向けた冊子を全戸配布する。ほそごう学園のチラシについても全戸配布するとあるが、これはほそごう学園だけ出すのか。全市民にチラシを撒くほど、ほそごうが進んでいるとは思わない。また、今の状態のほそごうにいらっしゃいといって何人来るか、仮に多くの方が来た場合、他の校区から苦情が来ることが予想されるので、教育委員会は独自のご判断をしていただきたい。

・働き方改革に伴う出退勤システムの導入は、教育日本一予算というよりも、一般予算で組むべきではないか。
・図書館のシステムの更新事業はなにをするのか、教育日本一予算なのかどうか。教育日本一予算は、とりわけ幼・小・中までの教育を含んでいるので、学校図書の充実を図る、もしくは学校図書のネットワーク化を図るというなら分かるが、図書館のシステム向上は図書館行政という別の枠で見るべきであり、財政に査定を仰ぐべきではないかと思うので、ご検討いただきたい。
・奨学金制度の変更に伴う就学支援で２，４００千円計上しているが、２，４００千円で足りるのかどうか。貧困の連鎖をなくすために、池田市の教育委員会として独自の教育施策を行おうと思えば、この金額では足りないと思うがどうか。メリハリをつけた予算にしていただきたい。

＜教育長＞
・英語専科教員の配置については、大阪府の教育委員会もこれまでの加配の配置の中で、加配の置き方、分割指導に充てていた加配を英語専科に活用できないかということで、今後次年度の加配について協議を行っていく予定。そのあたりの説明が府教育委員会から既に説明があり、例えば、英語専科教員は３校だが、府教育委員会の取り組みとして、１校、２校加配があれば、４校から５校と増えてくるので、府費の加配の動きも注視する必要がある。
・小学校の低学年のところに、常勤のベテラン教員あるいは退職校長を配置している低学年サポート事業についても、府教育委員会が今後取り組んでいくと聞いており、我々の方が先進的にやっているのかと思う。

＜教育政策課長＞
・ほそごう学園のチラシについては、学校運営協議会から、ほそごう学園を市民に知らせていきたいので、チラシの予算化を検討していただけないかという話をいただいたのが発端である。

＜総合政策部長＞
・出退勤システムの導入費については、どのような形で説明していくかという部分になるが、今回の予算編成方針として､経常経費はシーリングも一定かけさせていただいているところ。財政担当部局としては、教育委員会の説明によるが、経常経費でみるのであれば、シーリングも一定勘案して要求していただきたい。

＜教育部長＞
・図書館のシステム更新事業については、現在のシステムが旧式なのでバージョンアップを行い、インターネットによる貸し出しなどの図書館機能を持たせたいという要望があり、教育日本一予算に組み込んでいる次第。

＜管理部長＞
・就学支援について、これまで高校生、大学生については、学校長からの推薦で全て上がって

きており、教育委員会が判定を行っているところであるが、池田市在住者で他市に通っている高校生は対象から外れている部分があるので、公募によって範囲を広げる、仕組みを広げているところ。今後も後退せず支援していくため、教育日本一予算に入れさせていただいた。

＜委　員＞
・全体的な意見として、低学年サポート、英語専科についてお話があったが、ほそごう学園や一部の学校に限らず、全校での実施に向けて進めていただきたい。少人数学級編成については、目標を設定して進めていっていただきたい。
・教育日本一は、特色ある、他にない市独自のものであるべきだと思うが、なにをもって池田の教育とするのか、他に誇れるものとするのか検討していただきたい。

＜委　員＞
・少人数学級編成は非常に魅力的、理想的であり、市民の方へのアピールは大きいと思うが、やりだすと、継続していかなければならないので、費用面の課題もあるかと思う。
・子どもが教育を受ける環境は、貧困や家庭環境に左右されてはいけないので、平等な教育環境を堅持、充実させていっていただきたい。

＜市　長＞
・野球も大事だが、野球以外のスポーツもという話があった。八木選手にコーチになっていただいているが、野球以外に、他にどのような場面での活用を考えているか。

＜教育政策課長＞
・野球だけではなく、現在教育フェスタで企画しているアスリート会議や講演会で違う角度から子育てについてお話いただくなど、コーチ以外での活用についても考えている。

＜市　長＞
・ＰＴＡなどで講演いただくなど、幅広く活用させていただけたらと思う。
・東京オリンピックのホストタウンに登録され、ロシアの男子バレーボールチームが来てくださることになったが、これには、ミュンヘンオリンピックバレーボール金メダリストの大古さんが尽力してくださった。このようなアスリートとの関係によって、広がりが出てくる場面があるので、八木選手とのつながりも大切にしながら、野球だけでなく、幅広く活用していただきたい。

＜委　員＞
・検証について、外部評価を行う必要はないと思うが、内部的には効果等について議論し、今後について考えていくべきである。どのように訴えれば、市民の方に効果を対外的に示せるのか、一緒に議論をさせていただければと思う。
・以前、ほそごうの議論を聞かせていただいたときに発言したが、平等性と特殊性のバランスが重要だと考える。特殊なものは魅力的だが、公的事業なので平等性の確保も大事にしていただきたい。例えば、ふくまるはばたき塾のように手を挙げれば参加できるような機会の平

等を確保しながら、工夫をしていただきたい。

＜委　員＞
・金額が大きくなるにつれ、事業もどんどん増えてきているが、やはりメリハリが大事だと思う。市民が分かりやすく、そして魅力を感じるようなものに重点的に予算を配分するほうが良いのではないかと考えている。
・２億円まで積み上げていくということなので、次年度どうするか早目に考えていき、メリハリをつけ、予算の目玉がはっきりと出るよう検討していかなければならないと思う。

＜副市長＞
・何が目玉事業か市民に対して分かりにくいところがあるので、今後ご意見を参考に教育委員会と詰めてまいりたい。

＜教育長＞
・教育日本一に向けた特命予算については、メリハリがあって市民に分かりやすい、魅力的なものに予算配分を持っていければと考えているところ。本日のご議論を踏まえ、よりメリハリがついて魅力的な出し方になるよう心がけてまいりたい。

＜市　長＞
・教育委員会事務局で少々手詰まりがでてきており、今回教育委員の先生方に２０，０００千円の提案枠でご議論いただいたところ。
・平成３１年度も、余程の財政的問題が生じない限り、６０，０００千円上積みし、教育委員の先生方への２０，０００千円の予算提案枠も続行するつもりである。
・過去２年と平成３０年度を検証しながら、平成３１年度を迎えるために内部検証を頑張っていただきたい。
・平成３１年度は予定通りいくと、給食センターがオープンしている。平成３１年度中には池田小学校のグランドの給食センターを取り壊し、広いグランドにできたらと考えているが、緊張感を持って取り組んでまいりたい。
・給食センターは、１年間で１８０日しか営業しておらず、お昼ごはんだけの提供である。約４０億円の財源を投入しているので、費用対効果の面では疑問が残るところであり、今後、民間のノウハウで幅広く稼動することができないかなど検討しながら、教育日本一の池田だと思ってもらえるような成果を出せるようにしてまいりたい。引き続き、教育委員の先生方にもご指導、ご協力をお願いしたい。

３．閉会